

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

教育力・組織力・企画力を構成要素とする「学校力」のさらなる向上を図ることにより、生徒一人ひとりの個性・能力を最大限に伸ばすとともに、自ら目標を定め、その実現に向けて全力で努力する生徒を育てる。

1. 学習指導・進路保障体制の一層の充実により、「生徒を伸ばし、伸びゆく学校」をめざす
2. 主体的・自律的な努力を怠らず、自己の向上に努める生徒を育成する、「活気がみなぎり、かつ規律ある学校」をめざす
3. 自己表現力、コミュニケーション能力を育て、国際社会で活躍する人材を育成する、「グローバルに考え、行動する学校」をめざす

2 中期的目標

【次なる50年に向かって颯爽と】

→ 平成24年に50周年を迎えたことを踏まえ、これまでの伝統の継承・さらなる発展と、より多くの「颯爽」たる若者（枚方高校校歌の一節「颯爽たり 枚方」に因む）を育てていくことへの決意を込めて、これを合言葉としたい。

1 「生徒を伸ばし、伸びゆく学校」の実現に向けて

- (1) 生徒一人ひとりが、自己実現を果たしていくために必要な「確かな学力」を身に付けることができるよう、全教員の「授業改善」に取り組む。
 - ・各教科において一層明確な「学習到達目標」を設定し、「枚高マップ」をもとにした「教科スタンダード」を作成してきた。今後、新たに作成した指導と評価の年間計画（シラバス）の中で、評価の観点の趣旨と評価方法設定を進め、観点別評価に対応できるよう努めていく。また、次期学習指導要領の改訂に向け、本校生徒に応じた新しい教育課程の検討を始める。また、平成29年度入学生から再構築した「総合的な学習の時間」を「総合的な探究の時間」に移行するにあたり、課題の発見と解決していく資質・能力をより育成できるような学びを構築していく。
 - ・ICTの積極的活用の推進等を含めた「今後における新しい授業のあり方」についての校内研修をさらに充実させ、学校全体の取組みに発展させる。この取組み等により、令和4年度までに、学校教育自己診断（以下「自己診断」という。）における「教え方に工夫している先生が多い」の肯定率を80%以上にする（H29 69% H30 75% R1 79%）とともに、授業アンケートにおける満足度3.10以上を維持。（H29 3.12、H30 3.12 R1 3.24）（※「満足度」とは、授業アンケート「問8 授業内容に興味・関心を持つことができた」及び「問9 知識・技能が身に付いた」についての全教員の評価平均（4点満点））
- (2) 夢と志を持つ生徒の育成を図るとともに進路保障体制をさらに充実させる。
 - ・最後まであきらめずにチャレンジする生徒を育てることにより、令和4年度には現役生の国公立大学合格者を10人以上に。（H29 3人 H30 4人 R1 4人）
 - ・生徒支援体制を一層充実させ、自己診断における「悩みや相談に応じてくれる先生が多い」の肯定率を令和4年度には80%以上に。（H29：68%、H30：74%、R1：78%）
 - ・「総合的な学習の時間」・「総合的な探究の時間」でキャリア教育・人権教育・国際理解教育等を体系的に実施するとともに、課題解決できる力を育成する。
 - ・生徒の表現力を高め、創造力をより豊かなものにしていくため、読書指導や文章を書く力を育成する。

2 「活気がみなぎり、かつ規律ある学校」の実現に向けて

- (1) 学校行事の充実、部活動の活性化を図る。
 - ・学校行事については、生徒の主体的な取組みを一層支援し、自己診断における「文化祭・体育祭・修学旅行は、意義深いものになるよう工夫されている」の肯定率90%以上を達成し、維持していく。
 - ・部活動加入率について、令和4年度には80%を達成するとともに、一層の増加をめざす（H29 73% H30 74% R1 74%）
- (2) 生活規律を確立させる取組みを充実させる。
 - ・遅刻者数について、年間1,000未満を維持するとともに、一層の減少に向けて、指導を継続していく。（H29：644人、H30：638人、R1：882人）
 - ・制服の着こなし等、身だしなみに関する指導の充実、携帯電話使用に係る指導、自転車の乗車マナーを含めた交通安全指導の充実を図る。

3 「グローバルに考え、行動する学校」の実現に向けて

- (1) グローバルな人材を育成するため、英語の4技能を総合的に育成する授業づくりを推進し、教育活動の様々な場面において、「使える英語力」の伸長を図る。
 - ・大学等の協力を得ながら、英語暗唱弁論大会を充実し、「外国語キャンプ」、「インターナショナルフェスティバル」等に積極的に参加する。
 - ・英語検定、英語学力調査等の受検を推奨するとともに、それに向けた準備講習等を計画的に実施し、卒業時には、全員が英検2級レベル以上に合格するとともに、第2外国語選択者について各外国語の初級検定以上に合格することをめざす。
- (2) 国際文化科への改編に向けて、教育内容の検証と、新たな取組みの検討・準備・試行を行う。併せて、ユネスコ・スクールとしての取組みを更に充実させ、国際交流・異文化理解教育の活性化を図り、SDGsの課題なども含めて世界規模で考え、自ら考え、調べ、行動できる人間を育成する。
 - ・令和3年度国際文化科への改編に向けて、教育課程等の整備、教育内容の検討・準備・試行、総合的な探究の時間の充実を行っていく。
 - ・ユネスコ・スクールとしての取組みについて、テーマに応じて生徒会執行部や複数のクラブが主体的に関わっていき活動となるよう、推進していく。

4 教員組織体制の強化と教育環境のさらなる整備

- (1) 学校トータルとしての広報活動を立案・実施する機能の強化。
 - ・**渉外・広報に関する校内組織を一層強化**。本校の魅力や入学者選抜におけるアドミッションポリシー等、必要な情報を積極的に発信していくため、中学校訪問・学校説明会等のさらなる改善や学校HPの計画的な更新等を進めていく。
- (2) 教育環境の整備とエコ対策の強化を図る。
 - ・**学校として短焦点プロジェクターやタブレットPCの活用を推進**するとともに、次世代のスタンダードとなる教育施設・設備を導入できるようつとめる。
 - ・**ペーパーレス環境の一層の推進**に向けて、校内における連絡体制や各会議のあり方等を見直していく。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>生徒アンケートは36項目中35項目で肯定率が上昇 【生徒アンケート】(回答率 100%)○</p> <p>肯定率が昨年度に比べて大きく上昇(5%以上)した項目 22項目(◎)</p> <p>18 それぞれの授業では毎回の狙いや授業のポイントが示されている。・・・89.4%(16.9%増)</p> <p>15 枚方高校はボランティア活動が活発である。・・・85.1%(14.2%増)</p> <p>30 学校で事件や災害が起こったときどう行動すればよいか知らされている。・・・90.6%(12.7%増)</p> <p>3 枚方高校には他校にない特色がある。・・・84.2%(10.7%増)</p> <p>16 枚方高校はわかりやすい授業が多い。・・・81.5%(9.8%増)</p> <p>5 枚方高校には「学習と部活動の両立」を大切にしている雰囲気がある。・・・87.3%(9.7%増)</p> <p>17 枚方高校には興味深く楽しい授業が多い。・・・75.2%(9.6%増)</p> <p>20 授業では自分の考えをまとめたり発表したりする機会がある。・・・92.2%(9.1%増)</p> <p>4 枚方高校には授業を大切にしている雰囲気がある。・・・89.5%(8.9%増)</p> <p>36 総合的な学習の時間（枚方未来学）は自分の成長に役立っている。・・・81.7%(8.2%増)</p> <p>24 枚方高校の先生は生徒の意見をよく聞いている。・・・87.9%(8.0%増)</p> <p>(8%以上上昇したもののみ掲載。詳細は学校WEBページ)</p> <p>肯定率が昨年度に比べて大きく下降(5%以上)した項目 0項目(○)</p> <p>保護者アンケートは34項目中2項目で肯定率が上昇、3項目で減少 【保護者アンケート】(回答率79% (+7%))◎</p> <p>肯定率が昨年度に比べて大きく上昇(5%以上)した項目 2項目(◎)</p> <p>25 枚方高校のホームページはよく役に立っている。・・・77.2%(12.4%増)</p> <p>27 学校運営に校長のリーダーシップが発揮されている。・・・78.4%(5.7%増)</p> <p>肯定率が昨年度に比べて大きく下降(5%以上)した項目 3項目(▲)</p> <p>30 枚方高校は保護者や地域の人々に対して授業参観の機会を設けている。・・・65.4%(23.2%減)</p> <p>34 枚方高校はPTA活動が活発である。・・・73.5%(12.4%減)</p> <p>33 枚方高校は保護者や地域の人たちと話す機会を設けている。・・・66.2%(10.0%減)</p> <p>教職員アンケートは52項目中5項目で肯定率が増加、11項目で減少 【教職員アンケート】(回答率75% (+5%))◎</p> <p>肯定率が昨年度に比べて大きく上昇(10%以上)した項目 5項目(◎)</p> <p>42 清掃が行き届いている。・・・70.0%(20.0%増)</p> <p>12 評価の在り方について話し合う機会がある。・・・73.3%(14.2%増)</p> <p>9 創意工夫を生かした「総合的な学習の時間」を実施している。・・・80.9%(11.1%増)</p> <p>47 府などの主催する研修に計画的に参加できる体制が整っている。・・・70.5%(10.5%増)</p> <p>28 人権尊重に関する課題や指導方法について、全教職員で話し合っている。・・・68.9%(10.4%増)</p> <p>肯定率が昨年度に比べて大きく下降(10%以上)した項目 11項目(▲)</p> <p>46 他の教職員の授業を見学する機会がある。・・・77.1%(22.9%減)</p> <p>37 教職員が様々な課題や悩みについて気軽に話し合えるような職場の人間関係ができていない。・・・60.9%(20.1%減)</p> <p>51 保護者や地域の人々と接する機会が設けられている。・・・63.0%(18.4%減)</p> <p>26 生徒に社会規範や市民道徳を守る意識が育まれる機会をつくるよう配慮している。・・・60.9%(16.6%減)</p> <p>18 生徒指導において、外部の関係諸機関との連携ができていない。・・・70.5%(16.0%減)</p> <p>38 教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている。・・・70.5%(14.9%減)</p> <p>39 教職員の服務規律への自覚が高い。・・・77.8%(14.9%減)</p> <p>31 体罰やセクハラ防止をはじめ、人権尊重の姿勢に基づいた生徒指導が行われている。・・・71.7%(12.9%減)</p> <p>32 学校運営に校長のリーダーシップが発揮されている。・・・80.4%(12.2%減)</p> <p>3 教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている。・・・58.7%(11.1%減)</p> <p>25 情報リテラシーを高める教育に取り組んでいる。・・・65.9%(11.0%減)</p>	<p>委員構成6名（大学准教授、会社役員、中学校長、小学校長、保育所長、PTA会長）</p> <p>【第1回：7月20日】「H30学校評価、H31年度学校経営計画」「授業アンケート」「教科書選定」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H30学校評価：学力生活実態調査、受験実績、部活動、遅刻指導等報告 ・H31学校経営計画：授業力の向上、生活指導、国際交流、広報等説明 <p>Q コロナ禍で色々なことが実施できないと思うが、生徒一人ひとりの自己肯定感をどのように伸ばしているか。</p> <p>A 授業で理解を実感することで達成感を意識させること、また、行事・部活・「総合的な学習（探究）の時間」などで、先輩と後輩、同級生の仲間たちとのつながりを強化することで、生徒たちは、すこしずつ自己達成感を持つようになる。今年度の「総合的な学習の時間」ではSDGsについて枚方市との連携企画（3年）も予定。外部の大人たちと協働することで一層の達成感を体験してほしい。</p> <p>Q コロナ疲れや精神的な影響などはみられるのか。</p> <p>A 保健室登校者は現在なく、コロナ不安を如実に訴える生徒はいない。ただし、保健室で体を休める生徒は増加。コロナの事が話題になることもある。様々な理由で精神的な不安の訴えがあった場合は、スクールカウンセラーなどに繋げていく体制も整えている。</p> <p>Q オンライン授業の体制は全家庭で整っているのか。</p> <p>A スマートフォンの所有率はほぼ100%。PCやタブレットは、親兄弟がリモートワーク等で使用しているケースも多い。</p> <p>【第2回：11月30日】授業参観、「国際文化科準備」「授業アンケートについて」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際文化科改編の準備状況の説明 SDGsに取り組み、世界を意識して情報を発信できる学科へ ・授業アンケート結果について・・・昨年度に引き続き、全項目で値上昇 ・事務局各分掌より、現状報告（総合的な探究の時間、GIGAスクール構想、教務、生徒指導、進路他） <p>Q 国際文化科の希望状況は、どのようであるか。</p> <p>A 国際文化科の説明会などの希望者は多いが、志願者となるかはまだ分からない。（意見）枚方未来学（総合的な探究の時間）の“3つの柱”（人権・進路・異文化理解）はよいと思う。</p> <p>Q （英語に重点を置く）国際文化科の教育課程に、理系の科目をどのように入れていくのか。</p> <p>A 選択科目として、最大8時間が選択可能となる。意欲ある生徒に対応できるようにしたい。（意見）小学校ですでにiPadが導入されており、中学校を経て高校でもiPadを活用することになる。教育活動に変化がある。</p> <p>A 枚方市ですでに導入されているが、高校での導入形態は未定。故障等トラブルも想定される。活用については検討していきたい。</p> <p>【第3回：2月1日】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で色々大変な年であったが、生徒たちがこちらの期待に横答えてくれた。SDGsに力を入れ、枚方市等との連携、PTA他関係機関の協力もいただき、大きな成果を上げることができた。 ・令和2年度の学校評価について、「授業アンケート」では、平均値が年々上昇しており、教員の頑張りと生徒たちがよくついてきていることが表れている。「学校教育自己診断」で生徒たちからは大変な高評価。保護者・教員の評価では下がっているものもある。PTA活動や国際交流・地域連携、校内研修などが十分できなかった。進路状況について、「大学入学共通テスト」の本校の受験者は過去最多。 1・2年も模試の受験者数が増えている。進路学習も関心高い。台湾の学校とのオンライン交流を準備している。次年度に反映したい。 <p>Q 読書指導の評価が低いのが、何か対策は？コミュニケーション力が問われている時代、本を読む習慣を身につけさせたい。</p> <p>A 図書室の利用は少ない。本の購入予算が少ないため、生徒の読みたい本がなかなか買えない。生徒は図書館に自習に来ている。</p> <p>Q 業務改善が喫緊の課題。全員タブレットを持つ時代。メール等での連絡など、どのような工夫を行っているのか。</p> <p>A 職員朝礼などで、通知等をメール配信しているが、決定的な改善はできていない。今後、新たな業務も想定される。検討したい。</p> <p>Q 中学校ですでにタブレットが導入され、市単位でチームを組み、運用等の研究を行っている。高校ではどうか？</p> <p>A 高校の導入は遅れている。枚方市では小学校から導入・活用されていると聞いている。府の指導の下、研究を進めていきたい。</p> <p>・令和3年度学校経営計画において、コミュニケーション力、プレゼンテーション力のさらなる育成、SDGsに関する学びなど、調べ、行動し、発信する力の育成、国際文化科の充実、教員組織体制の強化、外部との連携を設定したい。</p> <p>Q 観点別評価について、評価の基準が変われば、授業が変わる。時間をかけ十分に準備してもらいたい。</p> <p>A 了解いたしました。以上、次年度の学校経営計画に設定します。【承認】</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 「生徒を伸ばし、伸びゆく学校」の実現	(1) 全教員の授業力向上	ア 指導と評価の一体化の導入を進め、観点別評価を試行する。国際文化科教育課程の一部先行実施及び試行。新教育課程（R4～）の策定。 イ 授業アンケートの結果について、全教員が真摯に受け止め、改善に向けて取り組む。 ウ 教員相互の授業見学や他校等の先進的な実践を視察する機会を活用し、ICT機器の活用やグループ学習などの研究・研修に努めて、主体的・対話的で深い学びを推進し、魅力的で「わかりたくなる授業」をめざす。	ア 観点別評価の試行、国際文化科教育課程の一部先行実施。新学習指導要領の改訂に基づく教育課程（R4～）の策定。 イ 授業アンケートにおける「満足度」の維持（R1年12月実績3.24） ウ 自己診断「教え方に工夫をしている先生が多い」の肯定率を80%以上に（R1年79.3%）	ア 策定済み。○ イ R2年12月 3.31 ◎ ウ 自己診断「教え方に工夫をしている先生が多い」肯定率 86.3%(+7.7)◎
	(2) 夢と志を持った生徒の育成、進路保障体制のさらなる充実	ア 家庭学習を含め、今後における学習指導のあり方について、授業力向上 PT を中心として検討・実践を進めていく。 イ 学習指導、進路指導の充実・改善に外部模試等を積極的に活用する。特に節目となる時期の模試については、校内で全員を対象として実施する。また、各担任の進学指導スキルの一層の向上を図るための研修等を計画的に実施する。学習到達目標に合わせた学習指導と進路指導を共有化する。（教科スタンダードの活用） ウ 生徒の日々の学習や活動の記録を蓄積し、教育効果の検証や新たな調査書に対応できるよう準備する。 エ 「生徒支援委員会」「人権教育推進委員会」「帰国・渡日生連絡会」学年会等での情報共有を密にし、個別の課題等を抱える生徒の支援体制を充実。SC、関係外部機関との連携、いじめ、ハラスメントに関するアンケートの実施および面談の充実を行う。 オ キャリア教育・人権教育・国際理解教育の一層の充実に向けて、外部講師等の活用など、これまでの実践を継承・発展させるとともに、「総合的な学習の時間」を「総合的な探究の時間」として再構築し、課題を見つけ探究し、解決する能力を育成する。	アイ 「学力生活実態調査」における生徒の家庭学習時間を平日、休日とも平均60分以上に（H31年1・2年平均平日44.5分、休日70.5分）また、同調査における「B2ゾーン」以上の生徒割合を2年生（2回目）で43%以上に（R1年41.2%）。以上の成果として進学実績を向上させ、現役生国公立大4人以上かつ関関同立40人以上の合格をめざす（R1年度4人、40人：9クラス） エ 自己診断「悩みや相談に応じてくれる先生が多い」の肯定率を80%以上に（R1年78.7%） 「いじめについて真剣に対応」の肯定率維持（R1年86.0%） 自己診断（保護者）「保護者の相談に適切に対応」の肯定率維持（R1年89.3%） オ自己診断「将来の進路や生き方について学び機会がある」、「人権について学ぶ機会がある」の肯定率の向上（R1年進路：93.2%、人権94.0%）	アイ ・家庭学習時間 R2年 1・2年平均平日 50分、休日 82分 ▲ ・「B2ゾーン」以上の生徒割合を2年生（2回目）R2年 48.4% ◎ ・国公立 2人 ▲ 関関同立 48人 ○ ウ 準備は行っている。 エ 自己診断「悩みや相談に応じてくれる先生が多い」の肯定率 84.2% (+5.5) ◎ 「いじめについて真剣に対応」の肯定率 91.6% (+5.6) ◎ 自己診断（保護者）「保護者の相談に適切に対応」肯定率 オ 「将来の進路や生き方について学び機会がある」肯定率 96.0% (+2.8) ○ 「人権について学ぶ機会がある」肯定率 96.2% (+2.2) ○
2 「活気がみなぎり、かつ規律ある学校」の実現	(1) 学校行事の充実、部活動の活性化	ア 学校行事及びクラブ活動・生徒会活動の活性化を推進し、生徒の自尊感情の高揚を図る。 ・「ノークラブデー」や新たな部活動の指針を策定し、クラブの活性化と効率化及び学習との両立をめざす。 ・文化祭・体育祭を、企画から運営まで、可能な限り部活動生徒等に担当させる。 ・あいさつ運動、ボランティア活動、ユネスコ・スクールとしての取組み等について、生徒会と関係クラブ等が連携できる体制を構築。	ア 部活動加入率を3ポイント以上増（R1年74.7%） 自己診断「学校に行くのが楽しい」肯定率85%以上維持（R1・85.2%） 自己診断「文化祭・体育祭・修学旅行は、意義深いものになるよう工夫されている」の肯定率85%以上維持（R1年88.5%）	ア 部活動加入率 75.0% (+0.3) ▲ 自己診断「学校に行くのが楽しい」肯定率 88.1% (+3.3) ○ 自己診断「文化祭・体育祭・修学旅行は、意義深いものになるよう工夫されている」肯定率92.4% (+3.9) ○
	(2) 生活規律を確立させる取組み	ア 生活規律を重視する指導を明確化し、生徒・保護者の一層の理解を得るとともに、教員間の組織体制の充実。規則の再確認。 ・遅刻指導、服装指導、頭髪指導の継続 ・交通安全指導、薬物乱用防止教育の充実 ・SNSの正しい理解、携帯電話の使い方指導	ア 年間総遅刻者数1,000人未満維持（R1年度882人） 自己診断「指導に納得・共感」の肯定率向上（R1年 生徒74.5%、保護者86.6%）	ア 年間総遅刻者数 940人 ○
3 「グローバルに考え、行動する学校」の実現	(1) 英語4技能の育成と「使える英語力」の伸長	ア 英語力4技能の育成を進めるため、指導法の工夫を行うとともに、英検等英語外部検定について、1・2年全員の積極的な受験を行う。 イ 国際教養科の改編に向けて、教育課程に基づく教育内容の検討、決定及び取組みの準備を進める。	ア・イ 英検等、外部検定について、卒業時まで英検2級相当以上を取得することをめざす。 イ 国際教養科から国際文化科へ、継続性・発展性を持った円滑な取り組みの移行を行う。	ア 2級相当以上受験者数 123人 ○ 合格者数 53人 ○ イ 国際文化科3年間の教育課程、教育内容について準備・計画完了 ○
	(2) 国際文化科・ユネスコ・スクールとしての取組みの充実・国際交流活動の更なる充実	ア 海外修学旅行及び海外語学研修のさらなる充実、学校交流の推進。旅費の効率的な執行。 イ ユネスコ・スクールとしての活動を一層充実させるとともに、適切に情報発信。 ウ 異文化理解の推進に向けて、外部講師等を活用した講演やゲストティーチャーによる授業等を各学年で実施。	ア 事後のアンケート結果等を分析し、肯定率95%以上を維持。（修学旅行アンケート：全体評価R1年・96.4%） イウ 大学・地域等と連携した取組みの継続、充実。 自己診断「国際交流活動が活発」の肯定率90%を維持（R1年92.4%）・	ア 修学旅行アンケート：全体評価 96.9% ○ イ 自己診断「国際交流活動が活発」○ 肯定率 94.6% (+2.2)
4 教員組織体制強化と環境整備	(1) 広報活動の一層の充実	ア 広報に関する業務を分掌機能の中に明確に位置づけることで、学校トータルとしての広報機能を充実。Webページの充実を行う。 イ 学校説明会の一層の充実及び中学校等が主催する進学説明会への積極的参加を推進。 ウ 「枚高メルマガ」「ブログ」等の活用により、保護者への情報発信を一層充実させる。	ア・イ 志願者の確保（R2年度選抜の志願倍率1.12倍） 学校説明会の参加者数1,200人以上を維持（R1年は1,219人） ウ 自己診断「枚高メルマガは役立っている」65%以上（R1年64.6%）	アイ 志願倍率 1.23 ◎ 学校説明会参加者数 600人 (-) （国際文化科説明会） ウ 自己診断「枚高メルマガは役立っている」肯定率 63.3% (△1.3) ▲
	(2) 教育環境のさらなる改善・充実	ア ICT機器の充実、授業での活用の研究工夫。 イ 会議室でのプロジェクター活用、校内イントラネット、統合ICTの活用等により、会議資料や生徒出欠簿のペーパーレス化を一層推進。会議全般の効率化により時間短縮を図る。	ア ICT機器の活用による授業改善を行う。教員の活用率の90%以上維持（自己診断「教員のICT活用」90.7%） イ 会議のペーパーレス化や出欠簿の完全統合ICT化を進めるとともに、各会議1時間以内をめざす。	ア 自己診断「教員のICT活用」肯定率 87.2% (△3.5) ▲ イ 会議資料ペーパーレスは定着 ○ 会議時間は概ね1時間以内 ○